

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「本日は未練解消日なり」

テーマ：「死んだはずなのに、いつまでたっても成仏しない美少女」

キャラクター

45

ストーリー

40

テーマ(設定)

45

文章力

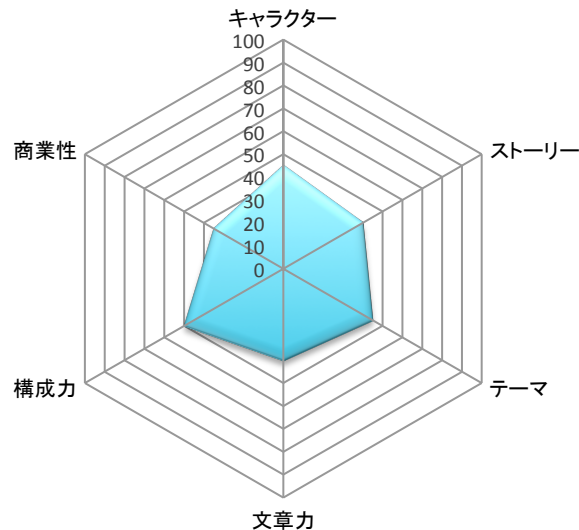
40

構成力

50

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

「意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い」について、決して意味は無いわけではないが、姉が死んだという冒頭の重い設定が結局ただ重いまま最期まで引きずられ、一体この小説の何を楽しめばよいのか分からなくなっていた点が残念。例えば女装→SNSアップはやり取りとして面白いので読み手としては笑うべき場面であるのだが、背景にある安軍局や魂や姉の死が〜といった設定が重過ぎるあまり笑いたくても笑えないといった印象。基本的には、明るい話で読み手が得られるのは「笑い」、暗めの話で読み手が得られるのは「感動」であることが多いので、この点を意識した上で、この作品は読み手に結局何を与えられたのかを考える必要があるように思われた。

起承転結がはっきりとしており、構成は非常によく考えられて組み立てられているという印象を受けた。安軍局という組織に警察的な権力をもたせ、この組織に物語全体の方向性を決めさせるといった手法は非常にうまいと感じた。

文章が小説というより「AはBと感じた〜」的な説明書のような文章になってしまっているため、もう少しキャラクターの心情の変化等は細かく書き込めばより物語に深みがでたのではないかとと思われる。また原稿用紙制限枚数に余裕があるため、もう少し具体的な情景描写も欲しいと感じた。

合計加点ポイント 0

総得点： 255 / 600

B方式総合得点： 10838 点